

事例

全児童21人 幼小中連携でパワーアップ

— 箕面市立止々呂美小学校 —

1. 実践の概要

(1) 学校の様子

止々呂美小学校は、箕面市の山間部、余野川の溪流に沿った山あいにある全校児童21人の小規模校だ。周囲は静かな自然環境に恵まれている。1階が小学校、2階が中学校、隣が幼稚園という特別な立地条件を生かして、幼小中連携が日常的に行われている。



(2) アットホームな幼小中連携

● 教職員の思い

止々呂美小学校の子どもたちは大きな集団での活動経験や学習経験が極めて少ない。したがって、中学校を卒業して高校に入る時点で初めて大きな集団を経験することになる。このような条件の中で、子どもたちは大きな集団や場に対して物怖じせず自分の力を発揮できるような様々な工夫の一つに校種間連携がある。

● 幼小中連携で開催する学校行事

● 幼小中合同運動会（第30回）

地域の方たちと一緒に行う合同運動会を開催。中学生と幼稚園児が手をつないで歩く入場行進に始まり、幼小、幼中、幼小中合同の種目が様々に工夫されている。



● 幼小中文化フェスタ

作品展示や劇の発表なども幼小中合同で開催している。

P T A ・地域の方の手芸や写真等の作品も展示されている。

● 「照葉の里」訪問

午前9時30分、1・2年生の4人が、止々呂美小学校の玄関に到着した幼稚園の子どもたち7人と合流して、歩いて5分ほどのところにある特別養護老人ホーム「照葉の里」を訪問した。

ともに運動会で踊った、幼稚園児は「おでんぐつぐつ」体操、小学生は「マツケンサンバ」のダンスをお年寄りたちに披露した。うれしそうに見てくれていたお年寄りたちに、小学生がコンピュータで作ったカレンダーをプレゼントした。お別れの握手の場面で恥ずかしがって握手ができない幼児がいたが、小2の女の子が手をつないであげて一緒に握手をするというほほえましい場面があった。幼小連携ならではの光景である。



● その他の取組み

止々呂美小学校では、このように普段の生活科や特別活動の時間に小学生が幼児と一緒に活動する場面が日常的にある。七夕の頃になると幼稚園へ行って一緒に笹かざりを作ったり、ゲストティーチャーで地域の方に来ていただいて絵を習う時も一緒に教えてもらったりする。このようにねらいを明確にした上で、日常的に効果的な合同授業を実施したり、様々な人との出会いの機会を意図的に取り入れたりしている。

1・2年生が毎年行っている「郵便屋さんごっこ」も幼稚園や中学校にも協力してもらっている。このように止々呂美には幼稚園児から中学生まで本当に家族的な雰囲気がある。

また、幼稚園の活動と小学校の生活科に重なるような部分があると言われるが、止々呂美小では、このような重なりがないように幼小の教員が相談しあって、幼稚園の取組みを踏まえた生活科に取り組んでいる。

さらに、止々呂美小中学校間では、確かな学力を確実に身に付けさせるために小中一貫教育にも取組み、国語科や算数・数学科において小中一貫した教育課程を編成し、成果を挙げている。



(3) 箕面市わくわくスタート事業

箕面市では、「わくわくスタート～もうすぐ1年生だね～」という取組みを続けている。

各学校が入学説明会に先立って、市内の新1年生とその保護者を対象に小学校生活を知ってもらうために、市内の保育所・幼稚園・小学校の教職員で実行委員会をつくり、そこが母体となって小学校生活を寸劇で紹介する取組みである。この事業は、5歳児や保護者の小学校生活への不安を解消し、期待を育み、入学当初から学校生活や学習活動をスムーズにスタートできるようにしようというものである。



2. 連携のポイント

- 学校規模や立地条件を生かし、積極的に幼小中連携に取り組んでいる。
- 幼稚園の取組みを踏まえた小学校の生活科に取り組むなど組織的、計画的に幼小連携に取り組んでいる。
- 学校間の「接続期」を設定して丁寧な対応を工夫している。